



～ みんなが主役 わたしたちのまちづくり ～

東広島市市民協働センターだより

第7号

2015年3月

もくじ

- ① 市民協働のまちづくり講演会に 360 人！
- ② アースバッグハウスで地域を活性化！
- ③ つつじの味く里づくり～福富のぼあぼの会「テ・ベっそ」
- ④ まちづくりミニ講演会（第2回）を開催！

〒739-8601 東広島市西条栄町8番29号
 東広島市役所北館1階
 東広島市市民協働センター
 電話：082(426)4560
 FAX：082(420)0402

地域情報が盛りだくさん！ <http://higashihiroshima.genki365.net/>

市民活動情報サイト



① 市民協働のまちづくり講演会に 360 人！

～ 5つの事例発表もとに討論も ～

「みんなが主役 わたしたちのまちづくり ～身近な取り組みを知ろう！～」をテーマに「平成26年度市民協働のまちづくり講演会」が2月23日、市中央生涯学習センター大ホールで開催され、市民や市職員など360人が参集しました。

当センター薦田専門員の進行で、住民自治協議会やNPOから5題の事例発表（下表参照）があり、それぞれに対して中国新聞社論説委員の石丸賢さんが講評されました。その後、蔵田義雄東広島市長を交えたまとめ討論が行われました。

まちづくりの要点は危機感を共有し、集まり話し合い、発信することの必要性や「知りあいの連鎖」で様々な主体が活動に参画し、ないものをねだるよりあるもの（宝）さがしの大切さなどを確認しました。

蔵田市長は「協働のまちづくりは緒についたばかり。市の職員も“すべての仕事はまちづくりに繋がる”ことに思いを致し、市民の皆様と一丸になって仕事をしてほしい。おおいに手間をかけてください」と締めくくられました。

事例発表者・演題（発表順）

- ◎二宮康成さん（風早自治協議会）「家族カードの作成」
- ◎加地純子さん（NPO法人子育てネットゆめもくば）「ふるさと発見！！乳幼児親子バスツアー」
- ◎竹岡訓子さん（三ツ城自治協議会）「三ツ城古墳『光の宴』の開催」
- ◎野田 繁さん（志和堀小学校区住民自治協議会）「空き家を活用した定住対策」
- ◎矢藤道範さん（黒瀬さくらバス運行協議会）「地域公共交通『さくらバス』の運行



地域発で5題のまちづくり事例が発表された

② アースバッグ・ハウスで地域を活性化!

～ 広島大学留学生がワークショップ ～

アースバッグ・ハウスとは、土を詰めたアースバッグ（土のう袋）を積み重ねて作り上げる建築物のこと。

中東地域で 1000 年以上前から行われてきた伝統的な建築工法のひとつで、イラン生まれの建築家ナダー・カリリ氏がその技術をまとめ発展させたといわれています。

その土地の「土」を使い、内外装には木材や草木、廃材を使うエコな建築物でありながら、地震に対して十分な強度をもつといわれ、内外装とも自由にアレンジできます。近年、日本各地で建造されていますが、県内ではまだ事例がないようです。



世界のアースバッグ・ハウスの例

フランスからの留学生、マヤール＝デュラモランデ・ギェルバンさん（広島大学総合科学研究科博士課程）が市民協働センターに相談に来られたことをきっかけに、広島県での第一号となるアースバッグ・ハウスを東広島市内で建造する方向で話が進みつつあります。



12月10日（水）に広島大学で行われたワークショップの様子。約40人が参加し、活用方法についてさまざまなアイデアが出された。

現在は、福富町の住民自治協議会「福に富む郷 竹仁」に話をもちかけて、建設場所や活用方法などについて相談しているところです。



1月21日（水）に住民自治協議会「福に富む郷 竹仁」で行った打ち合わせの様子。

ギェルバンさんの本当の目的はアースバッグ・ハウスを作ることではありません。アースバッグ・ハウスの建設は、誰でも気軽に参加でき、いろんな人の意見や技術を取り入れながら作り上げることができます。その過程で、参加者どうしのふれあい、信頼関係の構築、地域風土の反映、いろんな世代の参加と交流、都市住民と田園部との交流など、まちづくりや福祉の視点からも大きな効果を期待しています。建設後は、まちづくりのシンボルとして、各種イベントの拠点に、地域製品の展示場に使ったりと、アイデア次第で夢が広がります。

③ つつじの咲く里づくり 福富のばあばの会「デ・ベッソ」

～ 里山を整備して市花“つつじ”を復活 地元資源を生かして都市部との交流も ～

福富町の元気な“ばあば”たちが中心となって活動する「デ・ベッソ」。「人と自然の響きあう里山づくり」を活動理念として里山を整備し、市の花でもある「つつじ」の復活に取り組んでいます。

今年は「東広島市市民協働のまちづくり活動応援補助金」を得て、地元住民のほか、大学生や都市部の住民も巻き込んで久芳地区の荒れた里山を手入れし、地域の自然や文化を再認識し、癒しを求める都市住民には第二の故郷を提供したいと考えています。

活動の成果は“お花見”で確認することとし、遊歩道や看板を整備していきたいと考えています。また、将来は“つつじサミット”の開催や、福富町をまるごとエコミュージアム（地域の自然や文化を育成・展示する野外博物館）にしたいなど、大きな夢も持っています。

これまでのおもな活動は以下のとおりです。

◆10月22日（水）「つつじを探そう」

参加者 22名

自生する2種のつつじの見分け方を学習。荒れた里山に分け入って、つつじにリボンを巻きつける。リボンは今後、下草を刈る際の目印となる。手分けして探索を行った結果、200株以上のつつじを見出すことができた。

作業のあとは集会所に入り、地元の食材を使ったお弁当と名物「ごぼう茶」をいただき、今後の活動などについて懇談した。



つつじにリボンを付ける作業

◆12月3日（水）「がんばれつつじ」

参加者 29名

10月の作業でリボンを付けたツツジを残すように注意しながら、常緑広葉樹を中心に下草刈りを行った。除伐した樹木は里山から持ち出して、道路脇に集積した。

作業のあとは、お汁粉、焼き餅、漬物などをいただきながら休憩し、作業の成果や追加作業の内容などを確認した。



温かいお汁粉でほっと一息

◆3月18日（水）「つつじの咲く里山づくり」体験版 参加者：20名

前回までの続きで、常緑広葉樹や枯れ木を除去し、つつじに陽光が当たるように整備。4月の「お花見」に向けて、遊歩道の一部も整備した。

作業のあとは集会所に入り、地元の名物「ごぼう茶」やおはぎなどをいただき、今後の活動などについて懇談した。

4月29日（水）には、活動の成果を「お花見」で確認するイベントを予定しています。イベントでは、開花したつつじの株数をカウントしたり、里山の恵みである山菜づくりの昼食を参加者と一緒に作り、楽しむ予定です。詳しいお問い合わせは、

【デ・ベッソ】会長：小林満利子

（電話 082-435-3012） または、

【エコネットひがしひろしま】事務局：市環境対策課（電話：082-420-0406）まで。

④ まちづくりミニ講演会（第2）を開催！

市民協働センターは12月17日に「まちづくりミニ講演会（第2回）」を開催。

中国新聞社石丸賢論説委員が「コミュニティ政策と市民協働のまちづくり～しがらみ・縁側・地方創生～」と題して講演され、「人と人の結び目をうまく生かせば“しがらみ”はトランポリンにもハンモックにもなる」、「誰もが気軽に集まれる公共財産としての縁側の復権を」、「地方創生は安易に成功事例を持ち込むよりも『これを無くしてはいけない』ものを探して守ることも大切」などと訴えられました。

午前中の大雪にも関わらず住民自治協議会関係者や広島大学生など36名（定員いっぱい）が参加され、「わかちあい」でも多彩な意見や感想が出されました。



講演会の様子



会場とのやりとりも交えて

市民協働センター活動日誌（抜粋）11～2月

□11月5日（水）

「市民協働センターだより」（第6号）発行

■11月12日（水）

住民自治協議会「福に富む郷竹仁」水辺のワークショップ（38名参加）

竹仁地域センターから沼田川河畔を歩いて踏査、自然観察や水辺の現状確認などを行った後、

その結果をもとにワークショップ。課題や今後の地域としての関わり方を話し合った。

□11月27日（木）

「まちづくり交流広場」に関する意向調査発送

■12月3日（水）

第2回つつじの咲く里づくり（福富町久芳後谷集会所の裏山・29名参加）

□12月10日（水）

里山の暮らし仕掛け人養成講座同窓会（志和町なみ滝藤原園・14名参加）

（続き）

アースバッグハウスワークショップ運営支援（広島大学学生プラザ・40名参加）

■12月17日（水）

第2回まちづくりミニ講演会開催（市民協働センター会議室・36名参加）

「コミュニティ政策と市民協働のまちづくり（中国新聞社石丸賢論説委員）」

□2月19日（木）

小谷小学校区市民協働まちづくり協議会「地域ネットワーク会議」出席（小谷地域センター）

■2月23日（月）

平成26年度市民協働のまちづくり講演会出演（中央生涯学習センター大ホール・360名参加）月